【求職者訓練】No.2

令和７年度　障がい者委託訓練カリキュラム

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 訓練科目名 | 介護職員初任者養成研修科（知的障がい者対象）（３か月）　　　　 | 訓練区分 | 知識・技能習得訓練（集合訓練） |
| 訓練期間(年間定員) | ３か月　(10名) |
| 訓練受講生の条件 | 特になし |
| 訓練目標 | 介護職員初任者研修課程の修了を目的とし、介護に従事する者としての心構えを始め、自己理解・ストレス対処・感情コントロール、コミュニケーションスキルを身に着ける |
| 仕上がり像 | 介護職員として働くための基本的な知識・技能を習得し、仕事をする上で必要な心構えや自身のストレングスを理解する |
|  | 科　　　　目 | 科　目　の　内　容 | 時　間 |
| 訓　　　　練　　　　内　　　容 | 職業能力講座 | 職業能力基礎講習 | 働くことの意義・基本ルール、社会人としての基礎的なﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾅｰ | 12 |
| 学　　　　　科 | 安全衛生 | 介護現場における安全衛生、感染症の理解と対応、心身の健康管理 | 164 |
| 職務の理解　 | 多様なサービスの理解、仕事の内容、働く現場の理解 |
| 介護における尊厳の保持・自立支援 | 人権の尊厳を支える介護、自立に向けた介護 |
| 介護の基本 | 介護職の役割、専門性と多職種との連携、介護職の職業倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメン、介護職の安全 |
| 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 | 介護保険制度、障がい者自立支援制度及びその他の制度、医療との連携リハビリテーション |
| 介護におけるコミュニケーション技術 | 介護におけるコミュニケーション、介護におけるチームのコミュニケーション |
| 老化の理解 | 老化に伴うこころとからだの変化と日常、高齢者と健康 |
| 認知症の理解 | 認知症を取り巻く環境、医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理、家族への支援 |
| 障がいの理解 | 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の理解、家族の心理 |
| こころとからだのしくみと生活支援技術（基礎知識） | 居住環境整備、自立に向けた介護（整容・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・睡眠）、終末期ケアの知識 |
| 振り返り　 | 振り返り、就業への備えと研修修了後における継続的な研修 |
| 修了評価 | 筆記試験（介護職員初任者研修事業実施要領に基づく全科目筆記試験） |
| レクリエーション講座 | 介護施設やデイサービスで実践できるレクリエーション |
| コミュニケーションスキル | 職場での人間関係、語彙力向上 |
| 自己理解 | 自己の強みの理解、ストレングスの活かし方 |
| 実習にあたって | 実習にあたっての注意事項、心構え |
| ストレスケア | ストレス対処、感情コントロール |
| 実　技 | こころとからだのしくみと生活支援技術（基本技能） | 居住環境整備、自立に向けた介護（整容・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・睡眠）の演習 | 87 |
| 介護の基本的技術 | 基本的な介護技術（更衣介助、車いすへの移乗、食事介助、排泄介助、手浴・足浴、） |
| 職場見学 | 高齢者・障がい者施設の介護現場を見学、職場の理解 |
| 就職支援 | 就職支援 | 社会人基礎力、コミュニケーション能力、職業人講話、履歴書・職務経歴書作成、面接指導 | 30 |
| 就職相談 | 就職相談、訓練終了後の就職相談 |
| 職場実習の振り返り | 職場実習を振り返り自己の強み・弱みを分析。職場実習で得た経験スキルを再確認。 |
| 職場実習 | 職場実習 | 福祉施設での業務の体験 | 12 |
| 訓練時間総合計　305時間　 |
| 職業能力講座　12時間 | 学 科　164時間 | 実 技　87時間 | 就職支援　30時間 | 職場実習　12時間 |
| 訓練休講曜日 | 原則として　土・日・祝日 |

* 上記訓練時間の内訳は標準時間であり、訓練の実施に際し、受講生の障がい特性、状況、能力等

に合わせて変更することがあります。